

国

語

入試分析

～入試ではこう出る!!～

問一 漢字の読み書き、副詞、俳句の鑑賞 配点20点

標準的な難易度 出題形式に変わりなし。漢字では(ア)の「惜別」と「遂げる」で直前講座の予想問題が的中した。(イ)ではc「細則」がやや難しい。また、dでは「納める」の訓読みと「納豆」の音読みが問われた。(ウ)の文法問題では、副詞の語尾「に」と他の品詞を見分ける必要があり、やや難易度が上がった。これで、助動詞1回、助詞6回、副詞1回の出題となった。(エ)は俳句の鑑賞文で、俳句からは読み取れないことを述べている選択肢を消去する必要がある。

問二 古文 配点16点

標準的な難易度 「今昔物語」からの出題。本文は完了の助動詞「ぬ」が多用されている。また、語句としては「生類」「虚実」「ことわり」「そしる」、謙譲語の「たてまつる」を理解できるレベルが要求されている。問題では(ア)と(ウ)で迷う選択肢がある。普段から本文と選択肢を読み比べ、選択肢の違いを吟味する習慣をつける必要がある。

問三 小説文 配点24点

標準的な難易度 本文は江戸時代の飢饉を舞台背景にしており、現代のコロナ禍による世相の暗さを連想させる。主人公の思いに問題作成者のメッセージを感じる。さて、本文は登場人物が多いために印をつけて頭を整理しながら読む必要がある。分量は4年連続で本文3ページと問題2ページ、出題でも6年連続で「朗読方法」と「文体」が問われている。(ウ)や(オ)の登場人物の心情理解がやや難しい。他の文章と同じように、本文中から手がかりを探すことが欠かせない。

問四 評論文 配点30点

標準的な難易度 本文は本やインターネットから得られる情報と知識の違いに関するもので、よく見られるテーマである。抽象的な語句として「相対的」「概念」「事象」などの理解が必要だが、文章展開は分かりやすい。やや難しいのは(キ)で、直後の具体例を言い換えた選択肢を選ぶ必要がある。ただし、他の問題でも選択肢の一部にある誤りに×をつけていく消去法が欠かせない。

問五 作文 配点10点

やや易しい(ア)の資料読み取りは計算を要する問題が続いているが、21年度は概算で答えられるレベルの数値だった。(イ)の記述問題は2年連続で制限字数が5字増えて、35字から40字以内となったが難易度は昨年と同レベルであった。

入試に向けての学習のポイント・アドバイス

国語の学習に近道はない。地道に知らない語句の意味を調べ、漢字・古文の基礎単語と文法を身につけよう。間違えた問題を復習する時は、必ず本文中の根拠と選択肢を比較しよう。